

資料・統計

2009年中央手術部手術統計

Annual Report of Operations in 2009

新潟県立がんセンター新潟病院
中央手術部

1. 外科

		胸腔鏡下	14
		左開胸	0
		開腹	2
胃	288	咽喉食道全摘	2
胃癌		遊離空腸移植	0
Staging laparoscopy	28	食道拔去	1
切除		試験開胸	1
全摘	53	<hr/>	
残胃全摘	15	肝胆膵	190
噴門側切除	11	肝腫瘍	
幽門側切除 (開腹)	110	肝細胞癌	15
幽門側切除 (腹腔鏡補助化)	10	肝内胆管癌	4
PPG, 分節切除	19	転移性肝癌	11
SSD	1	その他肝腫瘍	1
非切除		胆道癌	
単開腹	2	十二指腸乳頭部癌	2
バイパス	0	胆嚢癌	8
その他	0	胆管癌	22
再発		膵臓疾患	
肝転移切除	1	膵臓癌	43
リンパ節郭清	3	IPMN	6
局所切除	1	その他膵疾患	9
副腎摘出	1	その他	
腸切除	2	十二指腸癌	1
バイパス	2	GIST	3
イレウス		小腸癌	0
腸切除	2	胆石症・胆嚢ポリープ	21
バイパス	1	汎発性腹膜炎	1
癒着剥離	10	NHL	2
人工肛門造設	0	ITP	2
胃瘻・空腸瘻	2	癌の再発	4
非上皮性腫瘍		腸閉塞	4
GIST	7	他科疾患	9
悪性リンパ腫	1	その他悪性	5
その他	1	その他良性	18
その他	3		191
<hr/>		術式	
食道	42	膵頭十二指腸切除術	37
良性腫瘍	0	肝切除	33
非上皮性腫瘍	0	肝膵同時切除	2
食道癌	42	胆嚢癌根治術	7
右開胸	22		

膵体尾部切除術	14
腹腔鏡下胆嚢切除術	11
ラジオ波焼灼術	14
PTCD/PTAD	36
<hr/>	
結腸, 直腸	308
原発	197
結腸悪性	122
(腹腔鏡下手術 26)	
右半結腸切除術	52
S状結腸切除術	32
右結腸切除術	10
左半結腸切除術	10
下行結腸切除術	5
回盲部切除術	5
横行結腸切除術	4
結腸部分切除術	1
盲腸切除術	1
低位前方切除術	2
大腸垂全摘術	0
結腸良性	0
直腸悪性	75
(腹腔鏡下手術 9)	
低位前方切除術	31
前方切除術	19
超低位前方切除術	17
経肛門的切除術	4
直腸切断術	3
ハルトマン手術	1
骨盤内蔵全摘術	0
直腸良性	0
再発・転移	25
肝切除術	15
超低位前方切除術	2
低位前方切除術	1
S状結腸切除術	1
拡大右半結腸切除術	1
回腸結腸部分切除術	1
大動脈周囲リンパ節郭清術	1
脾摘術	1
腹膜播種腫瘍切除術	1
人工肛門造設術	1
肝転移	21 (上記原発再発症例に含まれる)
異時	15 (上記再発症例に含まれる)
同時	6 (上記原発症例に含まれる)
その他の手術	86 (内緊急手術 19)
他科癌・他癌	24
人工肛門造設術	6
低位前方切除術	3
超低位前方切除術	3

空腸・回腸部分切除術	3
肝部分切除術	2
骨盤内腫瘍摘出術	2
S状結腸切除術	1
会陰部腫瘍切除術	1
側方リンパ節郭清術	1
非切除術	1
その他	1
人工肛門閉鎖術	27
洗浄ドレナージ人工肛門造設術	10
腸閉塞手術	5
直腸狭窄拡張術	4
腹壁癒痕ヘルニア	4
人工肛門造設術	3
低位前方切除術	1
前方切除術	1
その他の手術	7

乳癌	
外来手術	
乳腺	28
入院手術	
乳腺	
良性+プローベ	14
乳癌	308
Auchincloss	32
Mastectomy + SLNB	26
Simple mastectomy	11
Lumpectomy + Ax	81
Lumpectomy + SLNB	109
Lumpectomy	49
その他	
局所再発 (リンパ節, 創)	11
温存乳房切除	
断端陽性	2
乳房内再発	15
温存乳房部分切除	
乳房内再発	13
後出血	1
その他	2

2009年の外科手術件数は入院1195件, 外来28件で2008年と比べほぼ同数であった。各臓器別入院手術件数は乳腺394件と50件増加した。乳癌手術では78%が乳房温存手術でありここ数年は温存率が一定となった。消化器では食道42件, 胃288件, 肝胆膵190件, 直腸・結腸308件であった。食道・結腸直腸・肝胆膵の手術件数は一昨年とほぼ同数であったが, 胃癌の手術が若干減少し結腸・直腸の手術数が

増加した。消化器癌では鏡視鏡下の手術が復活し腹腔鏡補助下胃切除が10件、腹腔鏡補助下結腸直腸切除が26件行われた。本年4月には胃グループに松木先生が常勤医として赴任し、ますます腹腔鏡手術が増えるものと予想される。(文責 土屋嘉昭)

2. 呼吸器外科

1. 気管(支)疾患	7	
気管切開		6
気管支瘻		1
2. 肺疾患	244	
2-1 良性肺疾患		13(4)
炎症性肺疾患		4
良性肺腫瘍		6
その他		3
2-2 悪性腫瘍	231(68)	
2-2-1 原発性肺癌	196(50)	
全摘除		3
肺葉切除		136(38)
区域切除		39(6)
部分切除		16(6)
試験開胸		1
審査開胸		0
他		1
2-2-2 転移性肺腫瘍	35(18)	
結腸直腸癌肺転移		13(7)
骨軟部腫瘍肺転移		6(3)
腎癌転移		2(2)
頭頸部癌転移		1
乳腺		4(2)
子宮		2
精巣		1(1)
肺		1
他		5(3)
3. 縦隔疾患	15(7)	
3-1 縦隔腫瘍		15
胸腺腫		2(1)
奇形腫		0
胚細胞性腫瘍		0
神経性腫瘍		3(2)
胸腺癌		3(1)
胸腺カルシノイド		1
嚢腫		3(2)
リンパ腫		2(1)
他		1
3-2 縦隔鏡検査	0	
4. 胸膜疾患	11(3)	
気胸		2(2)
膿胸		3

胸膜生検	0
胸膜中皮腫	2(1)
他	4
5. 胸壁疾患	5

(): 胸腔鏡手術

2009年の手術数は282件で、昨年より増加した。原発性肺癌手術例は196例で、昨年とほぼ同数であった。残念ながら、2例の肺癌手術後の手術死亡があった。肺癌に対する胸腔鏡下手術(VATS)はさらに増加し、VATS肺葉切除は標準手術化され、区域切除にもVATSを導入している。本年は肺癌手術のうち25%をVATSで行った。従来から2cm以下の小型肺癌には、根治を目指した区域切除を行っているが、2009年からJCOGによる区域切除と肺葉切除の第III相比較試験が開始され、当科の登録数は全国でもトップレベルである。転移性肺腫瘍や縦隔腫瘍では、ほぼ半数が胸腔鏡下手術となっている。(文責 大和 靖)

3. 整形外科

腫瘍性疾患		
良性軟部腫瘍	切除術	104
	生検	6
	計	110
良性骨腫瘍	切除または搔爬+骨移植	31
	生検	7
	計	38
悪性軟部腫瘍	広範切除	24
	切除・生検	13
	計	37
悪性骨腫瘍	広範切除	8
	切除・生検	7
	計	15
脊髄腫瘍		1
転移性腫瘍・脊椎	除圧・後方固定	2
転移性腫瘍	髄内釘	6
	人工骨頭置換術	1
	切除・生検	10
	計	19
腫瘍性疾患	計	220

非腫瘍性疾患

脊椎疾患	脊柱管狭窄	1
	硬膜外膿瘍	1
	計	2
股関節疾患	人工関節置換術	4
	人工関節再置換術	2
	人工骨頭置換術	1
	計	7
膝関節疾患	人工関節置換術 全置換	6
	滑膜切除	2
	計	8
肘・手関節疾患	腱鞘切開	9
	手根管開放術	3
	腱断裂, 腱脱臼	2
	滑膜切除	4
	関節形成術	3
	計	21
足・足関節疾患	外反母趾	1
	滑膜炎	1
	計	2
その他	骨接合術	12
	デブリードマン	13
	抜釘・異物除去	3
	その他	3
	計	31
非腫瘍性疾患	計	71

総合計 291

総手術件数は昨年より増加した。また、総手術件数に対する腫瘍性疾患の比率も75.6%で昨年より増加した。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍67.2%, 悪性骨軟部腫瘍23.6%, 転移性腫瘍8.6%であった。(文責 島野宏史)

4. 脳神経外科

手術実績

1. 総手術件数	32
2. 腫瘍摘出術	26
3. クリッピング術	0
4. 血管内治療	0
5. その他	6
(脳定位的放射線治療 136)	

昨年とほぼ同じで、悪性脳腫瘍の治療に特化してきているためと思われます。(文責 吉田誠一)

5. 婦人科

腹式子宮全摘出術 (+ 付属器摘出術など)	77
子宮筋腫	53
子宮腺筋症	5
子宮頸部異形成	7
子宮頸癌	0期 5
	I a 1期 2
子宮内膜異型増殖症	4
子宮膿瘍	1
腔式子宮全摘出術 (子宮頸部異形成)	2
準広汎子宮全摘出術	13
子宮頸癌	I a 1期 7
	I a 2期 1
	I b 1期 4
子宮体癌	IV b期 1
広汎子宮全摘出術	27
子宮頸癌	I b 1期 15
	I b 2期 5
	II b期 4
	IV b期 1
子宮体癌	I b期 1
	II b期 1
子宮体癌手術	41
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術+骨盤リンパ節郭清) (子宮肉腫を含む)	
子宮体癌	I a期 4
	I b期 14
	I c期 8
	II b期 2
	III a期 7
	IV a期 2
	IV b期 4
悪性卵巣腫瘍手術	34
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術+骨盤リンパ節郭清+大網切除術)(卵管癌, 腹膜癌を含む)	
卵巣癌	I a期 5
	I c期 5
	II b期 1
	II c期 4
	III b期 4
	III c期 12

	IV期	2
転移性癌		1
<hr/>		
SLO (Second Look Operation)		3
(Secondary Reductive Surgeryを含む)		
卵巣癌		3
<hr/>		
子宮頸部円錐切除術		98
子宮頸部異形成		33
子宮頸癌	0期	54
	I a 1期	8
	I a 2期	1
	I b 1期	2
<hr/>		
LEEP (Loop Electrocautery Excision Procedure)		44
子宮頸部異形成		39
子宮頸癌	0期	5
<hr/>		
その他の悪性腫瘍手術		23
腔悪性腫瘍手術		1
外陰悪性腫瘍手術		3
再発癌手術		15
試験開腹術		4
<hr/>		
附属器摘出術		30
(附属器腫瘍摘出術を含む)		
<hr/>		
子宮筋腫核出術		17
<hr/>		
子宮脱手術		13
腔式子宮全摘出術+腔壁形成術		11
Le Fort手術		2
<hr/>		
腹腔鏡下手術		48
良性卵巣腫瘍		45
乳癌術後(両側卵巣摘出術)		1
卵巣癌	IV期	1
原発不明癌		1
<hr/>		
経頸管的切除 (TCR)		11
子宮筋腫		2
子宮内膜ポリープ		9
<hr/>		
子宮内容除去術		6
子宮体癌疑い		4
胎状奇胎		2
<hr/>		
その他		9
外陰生検		1
腔腫瘍摘出術		1

腔壁再縫合	1
腹膜癒着剥離術	1
腹壁癒痕ヘルニア修復術	1
創再縫合	1
単径腫瘍摘出術	1
子宮頸管ポリープ切除術	1
ドレナージ	1
<hr/>	
計	496

2009年の手術件数は496件であり、前年の484件より増加した。312件は悪性腫瘍または関連疾患に対する手術であり、全体の63%を占める。手術内容はほぼ例年通りである。

がん検診などで発見された早期の子宮頸癌では、子宮頸部円錐切除術、LEEPなど子宮温存手術が主として実施されている。近年、20～30歳代の若年者の子宮頸癌が増加している。未婚者や未産婦の場合、早期発見により妊孕性を温存することは重要である。

今年度から、子宮頸癌の発癌ウイルスであるヒトパピローマウイルスに対する予防ワクチンがわが国でも発売された。ワクチンの普及により、患者さんの身体的負担が大きい広汎子宮全摘出術は言うに及ばず、子宮頸部円錐切除術などの症例数もゼロに近づくことが望まれる。(文責 笹川 基)

6. 泌尿器科

悪性腫瘍に対する手術

副腎	転移性副腎腫瘍 (腎癌)	1
腎癌	根治的腎摘除術	30
	腎癌腎部分切除	16
	腎腫瘍生検ほか	3
腎盂尿管癌		
	腎尿管全摘除	30
膀胱癌	膀胱全摘+回腸導管	8
	膀胱全摘+皮膚ろう	3
	膀胱全摘+回腸膀胱	5
	膀胱部分切除(尿膜管癌, 膀胱癌)	4
	TUR-BT	238
	尿路変更(尿管皮膚ろう)	1
前立腺癌		
	前立腺生検	361
	前立腺全摘除	26
	TUR-Cap	5
	両側精巣摘除	19
精巣腫瘍		
	高位精巣摘除	14
	RPLND	2
陰茎癌	陰茎癌陰茎部分切除	3

ソケイリンパ節郭清	1	
計	770	
良性腫瘍に対する手術		
副腎腫瘍		
TUR-P	2	
計	2	
腫瘍以外の手術		
腎	経皮的腎ろう	19
尿管	尿管カテーテル法 (留置含む)	70
	他科尿管損傷 8例	2
	尿管鏡	1
	尿管ステント抜去	3
膀胱	膀胱ろう造設	3
	膀胱血腫除去 (TUC)	3
	膀胱鏡	2
尿道	内尿道切開 4例	5
	陰囊/精巣	
	陰囊水腫手術 3例	2
	精巣上体腫瘍, そけい部平滑筋肉腫	2
計	112	
総計	884	
延べ	841	

2009年の手術は延べ841名, 884件の集計であった。2007年の975件ほどではないにしろ, それに次ぐ件数と人数となった。個々の検討を行なうと腎癌手術は近年とほぼ同等, TURBTは2008年の249件より減って238件, 一方膀胱全摘術は2008年の9件から16件と倍増していた。ダブルJカテーテルやRPなどの尿管へアプローチする手術の増加と上部尿路腫瘍の増加が認められた。(文責 若月俊二)

7. 皮膚科

悪性腫瘍	
悪性黒色腫	28
基底細胞癌	64
有棘細胞癌	50
ボーエン病	25
日光角化症	19
外陰パジェット病	10
皮膚付属器癌	1
悪性軟部腫瘍	1
悪性リンパ腫	20
転移性皮膚癌	9

メルケル細胞癌	7
その他の悪性腫瘍	4
小計	238
良性腫瘍・その他	
母斑細胞母斑	78
上記以外の母斑	11
表皮嚢腫 (粉瘤)	87
脂漏性角化症	23
脂肪腫	33
皮膚線維腫・軟線維腫	22
良性皮膚付属器腫瘍	22
血管腫	31
ケラトアカントーマ	11
石灰化上皮腫	23
慢性膿皮症	3
良性神経系腫瘍	10
爪下外骨腫	3
その他	58
小計	415

コメント: 昨年比で悪性, 良性とも10例程度増加している。疾患構成は例年とほぼ同様の傾向であった。悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検はこれまで先進医療や臨床研究の範疇として行われてきたが, 本年4月より保険収載された。不要な郭清を省略する低侵襲治療として今後も標準化が進むものと思われる。(文責 竹之内辰也)

8. 眼科

水晶体再健術	
1 眼内レンズを挿入する場合	144
2 眼内レンズを挿入しない場合	1
眼瞼下垂症手術	
1 眼瞼挙筋前転法水晶体再健術	2
眼瞼結膜腫瘍手術	1
翼状片手術 (弁の移植を要するもの)	1
合計	149

2009年度の手術件数は149件で, 前年度の190件より減少した。水晶体再健術 (白内障手術) が178件から145件に, 外来手術が12件から4件に減少した。その理由として, 平成21年度から常勤医一人体制となったため開業医の紹介が減少したことが考えられる。手術の対象者は当院通院中の患者様が大半を占めている。(文責 大矢佳美)

9. 耳鼻咽喉科

生検	
硬性鏡下喉頭下咽頭腫瘍生検	41
頸部腫瘍生検 (リンパ節, 甲状腺)	17
小計 58	
甲状腺・副甲状腺	
甲状腺良性腫瘍半切	12
甲状腺癌 (半切, D1郭清)	30
甲状腺癌 (半切, 側頸部郭清)	5
甲状腺癌 (全摘)	3
甲状腺癌 (全摘, 頸部郭清)	1
小計 51	
頸部	
頸部郭清術のみ (原発操作に付属する頸部郭清)	(16)
小計 15	
気管・喉頭	
気管切開	7
気管孔閉鎖	9
気管孔拡大術	1
喉頭皮膚瘻孔閉鎖	2
喉頭垂直部分切除	2
喉頭全摘	6
小計 27	
口腔	
口腔良性腫瘍切除	3
舌部分切除	6
舌部分切除, 頸部郭清	1
口腔癌切除, 顎二腹筋弁再建	2
口腔癌切除, 前腕皮弁再建	1
小計 13	
咽頭	
咽頭皮膚瘻孔作成, 閉鎖	5
喉頭温存下咽頭部分切除 (空腸再建)	1
喉頭下咽頭全摘	1
小計 7	
大唾液腺	
耳下腺良性腫瘍	5
顎下腺腫瘍切除	1
顎下腺癌切除	1
小計 7	

その他

プロボックスボイスプロテーゼ留置術	7
上顎洞試験開放	2
DP皮弁作成, 切断	4
声門下狭窄LASER蒸散	1
輪状軟骨開窓術	1
頸部神経鞘腫瘍	1
鼻出血止血	1
小計 17	
合計 195	

手術総数はほぼ例年とおりであった。【甲状腺癌】Low risk症例の待機期間は1~2ヶ月と改善傾向にある。High risk症例で手術に難渋するケースが多くなった。【機能温存手術】当科の特色は喉頭機能温存手術である。喉頭垂直部分切除, 喉頭温存下咽頭部分切除, プロボックス手術はいずれも県内では当科のみが導入している。部分切除により患者さんの声を温存することが可能になり, 喉頭全摘で声帯を失っても術前と遜色のない声を取り戻している患者さんは増加傾向にある。総評: 今春から当科スタッフは3人に増員となった。これからも, 新潟県の頭頸部癌患者さんのために尽力していきたい。

(文責 佐藤雄一郎)